

Gunma Regional
Conference for Promotion
of Students Exchange

AKAGI

ぐんまの留学生

第 18 号



群馬県留学生交流推進協議会

目次

CONTENTS

1	巻頭言 巻頭言 関東学園大学 学長 日向寺 純雄……………	1
2	寄稿 いい国の良さを活かして行こう 群馬大学社会情報学部日本語日本文化研修留学生 ダグワドルジ アマルジャルガル (モンゴル) ……	2
	留学というきっかけ 共愛学園前橋国際大学国際社会学部 4年 白石久乃 ……	3
	S先生 関東学園大学大学院経済学研究科 1年 黄 榕 晶 (中国) ……	4
	国際交流サークル「Beyond」との7年を振り返って 群馬大学大学院教育学研究科 2年 神尾直樹 ……	5
3	県内高等教育機関の近況 ……………	6
4	交流事業・支援事業 ……………	9
5	資料 「平成18年における留学生等の状況について」……………	11
	「群馬県内留学生関係資料」……………	13
	「全国留学生関係資料」……………	16
	「群馬県留学生交流推進協議会関係資料」……………	19

1 巻頭言



関東学園大学

学長 日向寺純雄

関東学園大学は、経済学部・法学部の2学部と、経済学研究科・法学研究科の2研究科からなる大学院を備えた、群馬県東毛地区の太田市にある小規模の大学である。

現在、留学生はアジア数カ国から100名近く在学しているが、中国の山西大学、山西财经大学、山西師範大学の3大学と学術交流提携をしていることもあり、中国からの留学生が90%近くを占めている。現在、私自身も入試選考の時や、学部・大学院の授業で留学生と接する機会が非常に多い。流暢な日本語を話す者もいるが、大部分はたどたどしい日本語で顔を真っ赤にしながらか研究計画書の説明をしたり、研究報告をしている場面に遭遇すると、その度に1966年～1968年にかけての私自身の留学時代の姿と重なり、ついほろりとして甘くなってしまうのを懸命にブレーキをかけている自分に気付くことがある。

私事で恐縮だが、約40年前、大学院を修了し、イタリアのローマ大学に留学の機会を与えられた。当時は1ドル360円の時代。南回りで30数時間もかかり、現在のようにパソコンや携帯、FAXも一切無い時代。そして、海外で日本人にほとんど接する機会が無いような時代であった。そのような時に、ローマ大学学長、指導教授、助手、事務職員の方々に、暖かく接していただいたことは未だに忘れる事ができない。どんな小さな親切でも「地獄で仏」というような有難いものであった。

こんな経験を持っていることから、私は常々、留学生には最大限の暖かい心を持って接するべきであるという信念を持っており、このことは、我が関東学園大学の教員や職員にも十分徹底していると思われる。我々の大学では、留学生についての詳細な調査を行っている。その結果、彼らが私達の大学で本当に学びたいものは何か、卒業後、本当に選びたい道は何かということも把握できた。そこで今取り組んでいるのは、彼らが望む科目群の新設・編成を行うことと、日本での就職希望もかなり強いことから、その希望を叶える体制を作ることである。幸い群馬県、殊に太田地区は有効求人倍率が日本で指折りに高い地域であり、商工会議所にも強く要請しているので、この実現も期待できる。

いずれにせよ、留学生の皆さんが将来日本とそれぞれの母国との間に、どんな大地震にも破壊されない友好の架け橋を築いてくれることを強く念願しながら、我が大学の教職員は留学生の教育に日々励んでいる。



いい国の良さを活かして行こう

群馬大学社会情報学部日本語日本文化研修留学生

ダグワドルジ アマルジャルガル (モンゴル)

今年、私は日本人の学生の卒業論文発表会を聞く機会を得ました。会場で、発表する学生たちは皆、黒いスーツと白いワイシャツという姿で、カッコ良く見えていました。いよいよ発表会が始まり、学生たちは次々に発表をしていきます。しかし、その最中に「何で？」と驚くようないくつかの質問が頭の中に次々と浮かび上がってきたのです。

まず、リストを見てみると「コンビニおにぎりの在庫管理」、「友達がいることの意味」、「若者の化粧に関する意識」などの文字が目飛び込んできました。面白そうですが「何でこんな課題を論文にするの？」という疑問が出てきました。モンゴルの大学の卒業論文のテーマには、貧困や失業等の比較的客観的な問題が取り上げられます。それ故、日本の学生たちの発表テーマが、モンゴル人の私にはとても不思議に感じられました。次に、発表する学生のレジюмеが配られ、学生達はそのレジюмеに書かれていることをそのまま早口で読んで、発表を終わらせていきます。聞いている人達も皆、配られた紙をじっと見、読んでいる人を注目する人は一人もいないようでした。「これは発表？」という疑問が出てきました。モンゴルでは卒論発表をしている人は内容を暗記して、必ず頭を上げ笑顔で話すという常識があったからなのです。

最後に、発表の後、先生方からの質問に自信をもって適切に答えている人は数えられるほどで、殆どの学生は焦ったためなのか、よくわからない答えをしていました。先生方はそれを強く批判し、「答えになっていません。」と言っていました。その後、みんなを「良かったよ。」と励ましてあげていました。しかし、その後、日本の卒論発表会はセレモニーのようなものであり、どんなに失敗しても、その学生の今後にあまり影響がないということを知りました。おそらく、4年間もかかって勉強したことを10分間で判断されてしまうということが無いのは、学生にとって好ましいことだと感じられましたが、本当にそれでよいのだろうかという疑問も湧いてきました。

実のところ、モンゴル人学生は将来について何の展望もないまま卒業してしまいます。卒論発表の結果で卒業できるかどうかが決まり、仮に落ちたとしたら、また一年間卒業を待たないといけません。卒業したとしても就職先はまだわかりません。これから探すのです。将来の保証はゼロということです。それに比べると、日本の場合は学生への保証が徹底され、なんと良い国でしょう。何が正しく、何が誤っているのかを判断する能力は私にはありませんが、日本のように将来の保証をされている状況で、卒論研究とその発表をより丁寧にまじめに行えば、今後役に立つことを多く身につけられると思います。したがって、日本の卒論発表会は、日本の学生たちは、日本というこの素晴らしい国の絶好の環境を活かし、その上でさらなる情熱をもって進むべきではないかと、強く感じさせられる貴重な体験になりました。



留学というきっかけ

共愛学園前橋国際大学国際社会学部 4年

白石久乃

アメリカ留学から帰国して、約2年半が経ちました。この文章を書きながら振り返る留学生活は、今の私を形成する上で本当に重要なものでした。それはきっと、異国での人との出会い、自分が日本人であり何者なのかと考える経験が日本では味わうことができなかつたからでしょうか。しかし、その出会いや経験は全てが楽しく、有意義だったとは言えません。当初、現地学生はあまり日本人に親しみがなかつたものの、会話がままならない私にしきりに話しかけ知ろうとしてくれました。そこには民族の違い、言葉の壁は感じられず、私は残りの留学生活が楽しみで仕方がありませんでした。こんな何も知らないよそ者に対しても、親切にしてくれる人がいる生活に満足もしていました。しかし、時間が経つにつれアメリカでの生活の要領も掴め、もっとこうしたい、話したいという欲が出てきました。それは時にはプラスにも働き、マイナスにも働いたのでした。プラスに働けば、自分からしきりに話しかけ、友人の誘いや初めて体験するようなアメリカ文化を積極的に体験しに行くのでした。あまり、アウトドアが好きでなかつた私が、湖沿いでのキャンプを体験したことは大きかったです。自然の中での時間は私がアメリカ生活の中で最も大切にしていた時間で、全てを忘れられ、また今ある環境…アメリカで過ごしているその生活の有難さも感じられたのでした。しかし、欲がマイナスに働くとその環境に感謝するどころか「日本にいればこうしたい」など、現実を受け入れられず日本での生活とアメリカでの生活を比べ、ただ自分のエゴを通したいだけなのでした。この思いがあったときは、せっかくの友人の誘いも、自分の行きたくない場所だから面倒だと感じ、誘ってくれたことに対する感謝もなかつたのでした。そんな自分には声をかけてくれる友人も減り孤独になるのは当たり前なのに、それでも「日本人留学生の孤独さなんて分かるはずない」と強がってもしました。しかし、そんな気持ちでアメリカでの生活が上手くいくはずありません。何を見ても面白くない、何を食べても美味しくないという無気力な日々を過ごし、孤独で何もできない自分の小ささに初めて気付かされました。そこからは、今までの自分の驕った気持ちに罪悪感を抱き、人の優しさにただ感謝するばかりでした。それはアメリカにいる自分だけではなく、今まで生きてきた自分自身を含めてのことでした。このような体験は、きっと誰しものが経験し、そのきっかけが、私にはアメリカ留学だったのかもしれない。そのきっかけが私にかけがえのない体験と、友人を与えてくれたのでした。ただのきっかけも、自分次第でここまで大切なものになる…。これから出会う「きっかけ」の価値をアメリカ留学は教えてくれたのでした。



S先生

関東学園大学大学院経済学研究科1年

黄 榕 晶 (中国)

私は2006年3月15日に来日し、関東学園大学大学院で公会計学の教授S先生に指導して頂いている。最初、日本語学校さえも行ったことがない私は、日本語はもとより、教材の専門用語の英語も全く分からなかった。一つ一つの単語だけ聞き取れば一日中喜んでいた私であった。このように一年間が過ぎ、振り返ってみると、私はS先生から会計の知識のみならず、勉強の基本は何なのか、人間としての品格とはどんなものであるのかをも教わってきたのだと思う。

読書百遍義自ずからあらわる

中国出身である私は、当然この意味にあたる中国語の諺をよく知っているが、行動したことはない。いわゆる、「知っているけどしない」ということだ。最初、いくら読んでも、英語の教材も、日本語の翻訳もよく分からなかった。その時に、S先生は「読書百遍義自ずからあらわる」をもう一度教えて下さった。先生の研究室にある山のような本を眺めながら、「先生、こちらの本全部お読みになりましたか？」とバカな独り言を言ってしまった。「そうですよ。僕が若い頃、何十回も読んだ本もあるよ。一遍読むともう分かる人は天才だから。」と先生はおっしゃった。やや怒ったような先生の白髪頭には、きっと知識がいっぱい詰まっているだろうと私は思った。教材を二回読んでも分からなかったら、三回目に挑戦する。三回目も分からなくて、飽きてしまった私は、その飽きるのを我慢しているうちに、いつの間にか日本語を、そして知らず知らずのうちに、公会計のことも分かるようになってきた。「なるほど、これが勉強ということなのだ。」と最後に分かった。

一事が万事

日本語の文章が読め、日本語で文書を書けるが、どうしても、修士論文が書けない私は、いくら書いても変な日本語になったあげく、とうとう自分も変な方向に行ってしまった。元気もない、やる気もない。本当は、やりたいと思っていることが沢山あるのに。英語を忘れないために勉強しなきゃ、論文を上手く書けないから、日本語もう少し勉強しなきゃ、それに、親に頼らないようバイトを探さなきゃ…私なりに切羽詰っており、完全に焦っていた。結局、論文も書けず、本も読めず、先生に会わせる顔がない私は逃げることを選んでしまった。体調を崩し、声も出なくなってしまった。この時、S先生は論文を書けなかった私を責めることも、罵ることもなかった。ただ、「泣くなって。黄さんもう少し強くならなきゃ。一人で外国に勉強に来たのだから。最初に日本に来た時の気持ちを思い出さないと。逃避しても何にも解決できないし。早く体を治して。一事が万事だから。」と、おっしゃった。一事が万事。私は今の困難に負けたら、これからの人生における挫折、失敗にも負けてしまうだろう。初心忘るべからず。一人の人間が、多くのことをできるわけではない。だから、親に頼れる時に頼ってもよい、友達に助けを求めてもよい。そこには人間の絆が存在し、愛情、友情というものに感動する。この世は強いものが生き続ける世界だ。先生の強さと優しさに、品格のある人間の姿を見た。私もS先生のような素敵な人になりたい。これからも親や先生の期待に応えられるように頑張りたい。



ビヨンド 国際交流サークル「Beyond」との 7年を振り返って

群馬大学大学院教育学研究科2年

神尾直樹

群馬大学には、Beyondという国際交流サークルがあります。Beyondは、学部1年だった私を含め日本人学生と留学生が、2001年に群馬県で開催された国民文化祭への参加をきっかけに創立したサークルです。

Beyondでは、日本での生活に早く慣れてもらえるよう、毎月パーティーを開いて留学生と日本人学生の交流を図り、安心して生活できるように友達作りを進めています。留学生の多くは短期留学のため1年で帰国します。4月と10月始まりの留学生がいますので、4月と10月に歓迎会を開き9月と3月にお別れ会を開きます。Beyondでは生活面でのサポートと共に、留学生センターと連携を取り、チューター活動などにも協力し、学習面でのサポートも行っています。また、Beyondでは荒牧祭に出店し、韓国・中国・スロベニア・台湾・マレーシアなどの料理を多くの方に紹介しています。その他、県内の大学は小規模で散在しているため交流が困難ですが、県立女子大学や高崎経済大学などの学生たちとの交流も積極的に進めています。また、公共交通が少なく車の無い留学生にとって不便な群馬県での生活が少しでも楽しくなるよう、温泉旅行や尾瀬ハイキングなども行なっています。公民館で地元の方を対象に料理教室を行ったり、自治会の方々の協力で、前橋祭りをはじめ様々なイベントに参加したり地域交流も深めています。

このような活動の結果、「Beyondのことを先輩から聞いて、群馬大学を留学先に希望して来ました」という留学生も出てきました。卒業・就職後も来日の際には「群馬が第二の故郷だよ」とわざわざ会いに来てくれます。中には、短期留学を終えて、再び本学の大学院に入学した人もいます。

私も大学院入学後に韓国へ1年間留学しましたが、留学するきっかけになったのがBeyondであり、Beyondで知り合った友達に支えられ、留学を楽しく有意義に終えることが出来ました。私以外にもBeyondから、7年間で十数人の学生が留学しました。今も2名が留学しています。留学生の友人を頼って海外旅行に行く人、教育学部国語科から米国留学し、貿易会社に就職した人、留学先で出会った人と結婚した人もいます。今年も、留学生との交流から影響を受けてさっそく1人留学しそうです。

群馬大学が提携している留学先は、大都市の大規模校で、群馬大学とは異なった環境の中で生活を送ることが出来ます。様々な国の多様な文化に触れると新たな発見や驚きが沢山あります。美味しいモノが食べられます。常識だと思っていたことが常識ではないことに気付かされます。新たな自分の発見や知っている気になっていた日本、群馬について再発見することも出来ます。留学や海外旅行に興味がある方、留学はちょっと抵抗があるという方、まずは国際交流から始めてみてはいかがでしょうか。

Beyondに興味を持たれた方は、学年・学校に関係なく遊びに来てください。さまざまな体験があなたを待っています。「ホームページ<http://www.geocities.jp/gundaiabeyond/pc/>」

3 県内高等教育機関の近況

● 関東学園大学

本学では現在、学部83名、大学院生9名の外国人留学生在籍し、日々勉学に励んでいます。平成19年度も留学生歓迎会から始まり、インターナショナルカフェや富士登山、日光見学、企業・工場見学、防犯パトロール隊参加等多くの学内外交流行事が行われました。特に学内で選抜された留学生在が参加した各地域・団体主催の日本語スピーチコンテストにおいて、それぞれ最優秀賞を獲得する等の活躍が目立ちました。また留学生の日本国内就職希望に対して、地域、地元企業の応援を受けながら、大学として関連カリキュラムや就職支援体制を整備し、19年度は多くの内定者を出すことができました。今後も積極的に留学生交流・支援を推進して行きます。

● 共愛学園前橋国際大学

2008年2月現在、本学国際社会学部には51名の中国、韓国、タイ、トルコ、バングラデシュ、フランスからの留学生在籍しています。

2007年度より中国陝西省の西北大学との協定による交換留学生の受け入れを始めました。その他、例年どおり学祭への留学生レストラン出店、信州善光寺・小布施方面へのりんご狩りバス旅行も実施し、小学校での総合学習授業ボランティアにも参加するなど、学内外の学生や地域社会との交流活動も行いました。

● 群馬大学

本学では、平成20年2月現在、30か国1地域から260名の留学生在籍しています。

県内の小学校で出身国の紹介等を行う「国際理解講座」、日本語スピーチコンテスト、フードフェスティバル等県内の国際交流行事に多くの留学生在が積極的に参加し、地域の人々との交流を深めています。

また、スタディオブジャパンの授業では、茶道、華道、書道を体験し、日本文化への理解を深めました。

国際交流協定締結大学は、19年度43大学に拡大し、今後も学生・研究者交流を推進して行きます。

● 群馬県立女子大学

本学には、平成20年2月現在、中国、韓国、台湾からの計7名の留学生在籍しています。各自が目標を持って勉学に励んでいます。

平成19年度は、歓迎会、他大学留学生との交流会、大学祭での留学サロン出店、県内視察研修に行くなどの行事を行い、本学及び他大学の学生、地域住民と交流を深めたり、群馬県に関する知識を深めてもらうことができました。

また、留学生と地域社会との交流促進事業である前橋市立荒子小学校で行われた講演会「感じようアジアの風」に、交換留学生を講師として派遣しました。

● 群馬工業高等専門学校

平成20年2月現在、4学科の3～5年次に9名（モンゴル、ラオス、スリランカ、マレーシア）の留学生在籍しており、20年4月には新たに4名の留学生（モンゴル、インドネシア、マレーシア）の入学を予定しています。この1年の取組みとして、県内や他高専との国際交流行事等に参加するとともに、本校の寮祭等に自国紹介としての留学生コーナーを開設し、地域との交流に関わりました。また、ホームステイにも積極的に参加し、日本の文化を理解することに努めました。さらに勉学にも熱心に励んでおり、5年次生2名は大学3年次への編入学試験に合格し、後輩への良き模範となりました。

また、17年度より中国の上海工程技術大学との学生交流プログラムを毎年実施しており、20年3月末には26名の学生が上海工程技術大学及び、今年度新たに連携協定を結んだ上海市業余科技学院への訪問をする予定です。

● 上武大学

上武大学は、ビジネス情報学部、経営情報学部、看護学部の3学部において交流プログラムを運営し、国際交流委員会が支援を行っています。姉妹校であるフィンランドのセイナヨキ大学とは学生の研修旅行や教員の研究交流が行われています。海外英語研修は夏期の5週間に米国カリフォルニア大学で例年実施されています。海外実務研修は、夏期に中国の日系企業において実施されています。国費私費の留學生は、秋の大学祭（あらくさ祭）を始め、群馬県や伊勢崎市や高崎市などの行事に積極的に参加しており、地域の行事としては、日本語スピーチ大会、各国料理紹介、地域市民との集い、交流会議、名所旧跡訪問などを行っています。

●創造学園大学

2008年のこの春初めて卒業生を送り出します。OB、OG達が国の内外で活躍することを祈っています。昨年には、国際交流センターを設置し、新年度には「留学生別科」を新設する予定で準備を進めています。日本語と日本文化を1年間集中的に学ぶコースです。創造芸術学部のカリキュラムが日本文化や歴史を学ぶのに適していると思います。研究面では、2008年5月に初の外国人特別研究員（ポスドク研究員）を受け入れ、1年間共同研究を進めることとなりました。

●高崎経済大学

本学には2月現在、学部・大学院あわせて188名の留学生在籍し、国籍は中国が9割を占め、以下韓国、台湾、マレーシアで、ボリビアからの留学生も1名います。本学の姉妹校はアメリカ、オーストラリア、中国、モンゴルなどに計7校あり、平成18年度からは、ドイツとアイルランドの姉妹校との1年間の交換留学が開始され、すでに本学から7名を派遣し、姉妹校から7名を受入れました。

●高崎健康福祉大学

本学は、国家資格の取得に主眼を置いた職業系の学部・学科が中心であるため、これまでは留学生の受け入れを積極的には行ってきませんでした。現在は薬学部にかがからるの研究生が1名いるのみです。しかし今後は大学の国際化を進めるためにも、外国人留学生に対して大幅な門戸開放を計画中です。

国際交流としては、看護学部でインドネシアの看護大学との提携が進行中で、学生の交流・交換、研究者の交流を推進して行きます。大学が実施している海外研修プログラムとしては、オーストラリア研修（全学部対象）とニューヨーク研修（看護学部）があります。

●高崎商科大学

本学の留学生在籍数は、大学院2名、大学6名、短期大学部1名です。向上心の高い学生が多く、検定試験などにも積極的に挑戦しています。来年度は、大学院生1名と大学生4名が新たに加わるので、懇親会を開く予定です。

●東洋大学(板倉キャンパス)

板倉キャンパスには182名(学部生152名、大学院30名)の様々な国や地域の留学生在籍しています。一方、タイへの海外国際地域学研修、語学セミナー等のプログラムを組み、受入・派遣双方の充実を図っています。また、英会話・中国語などの課外語学講座を近隣住民にも開放しています。地元の小中学校との交流会が年々増加し、今後もより地域に根ざした交流を目指しつつあります。

●新島学園短期大学

本学の留学生は、中国1名、タイ1名の計2名です。少人数なので日本人学生と接することが多く、仲良く学生生活を楽しんでいるようです。2人はそれぞれ進路が決まり、中国からの留学生は四年生大学へ進学。タイからの留学生は東京都内で就職する予定です。

●前橋工科大学

本学の留学生は中国7名(学部生6名、院生1名)、韓国1名(研究生)、ベトナム2名(学部生)の計10名です。特に交流行事は設けていませんが、留学生同士の交流は自主的に行われています。国際交流については、地域研究開発センターが窓口となって、北京工業大学と協力と交流に関する協定を締結しておりますが、10月から12月にかけて、それぞれ約1ヶ月間にわたり、本学学生2名と北京工業大学学生2名との交換留学が行われました。

県内高等教育機関の所在地

名称は2008年3月1日現在

群馬大学
〒371-8510 前橋市荒牧町4-2 (本部・教育学部・社会情報学部)
TEL.027-220-7626 FAX.-7630
〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22 (医学部)
TEL.027-220-7792 FAX.-7798
<http://www.gunma-u.ac.jp>

前橋工科大学
〒371-0816 前橋市上佐鳥町460-1
TEL.027-265-0111 FAX.-3837
<http://www.maebashi-it.ac.jp>

共愛学園前橋国際大学
〒379-2192 前橋市小屋原町1154-4
TEL.027-266-7575 FAX.-7576
<http://www.kyoai.ac.jp>

群馬県立県民健康科学大学 (群馬県立医療短期大学)
〒371-0052 前橋市上沖町323-1
TEL.027-235-1211 FAX.-2501
<http://www.gchs.ac.jp>

明和学園短期大学
〒371-0034 前橋市昭和町3-11-19
TEL.027-231-8286 FAX.-8062
<http://www.hirakatagakuen.ac.jp>

群馬工業高等専門学校
〒371-8530 前橋市鳥羽町580
TEL.027-254-9054 FAX.-9080
<http://www.gunma-ct.ac.jp>

群馬社会福祉大学 (短期大学部)
〒371-0823 前橋市川曲町191-1
TEL.027-253-0294 FAX.254-0294
<http://www.shoken-gakuen.ac.jp>

群馬県立女子大学
〒370-1193 佐波郡玉村町上之手1395-1
TEL.0270-65-8511 FAX.-9538
<http://www.gpwu.ac.jp>

高崎経済大学
〒370-0801 高崎市上並櫻町1300
TEL.027-343-5417 FAX.-4830
<http://www.tcue.ac.jp>

高崎健康福祉大学 (短期大学部)
〒370-0033 高崎市中大類町37-1 (501)
TEL.027-352-1290 (1291) FAX.353-2055
<http://www.takasaki-u.ac.jp>

育英短期大学
〒370-0011 高崎市京目町1656-1
TEL.027-352-1981 FAX.353-8225
<http://www.ikuei-g.ac.jp>

高崎商科大学 (短期大学部)
〒370-1214 高崎市根小屋町741
TEL.027-347-3399 FAX.-3389
<http://www.tuc.ac.jp>

新島学園短期大学
〒370-0068 高崎市昭和町53
TEL.027-326-1155 FAX.324-1444
<http://ns.niitan.jp>

創造学園大学
〒370-2131 多野郡吉井町岩崎2229
TEL.027-388-2301 FAX.-2303
<http://www.tacc.ac.jp/souzou/>

群馬バース学園短期大学
〒377-0702 吾妻郡高山村中山6859-251
TEL.0279-63-3366 FAX.-3477
<http://www.paz.ac.jp>

東京福祉大学
〒372-0831 伊勢崎市山王町2020-1
TEL.0270-20-3672 FAX.-3678
<http://www.tokyo-fukushi.ac.jp>

桐生短期大学
〒379-2392 新田郡笠懸町阿佐美606-7
TEL.0277-76-2400 FAX.-9454
<http://www.kiryu-jc.ac.jp>

群馬大学 (工学部)
〒376-8515 桐生市天神町1-5-1
TEL.0277-30-1023 FAX.-1041
<http://www.gunma-u.ac.jp>

群馬大学 (工学部・生産システム工学科)
〒373-0057 太田市本町29-1
TEL.0276-45-5414 FAX.-5416
<http://www.gunma-u.ac.jp>

関東学園大学
〒373-8515 太田市藤阿久町200
TEL.0276-32-7910 FAX.31-3776
<http://www.kanto-gakuen.ac.jp>

群馬松嶺福祉短期大学
〒373-0813 太田市内ヶ島町1361-4
TEL.0276-30-2941 FAX.45-4547
<http://www.shorei.ac.jp>

関東短期大学
〒374-8555 館林市大谷町625
TEL.0276-74-1212 FAX.-1215
<http://www.kanto-gakuen.ac.jp>

東洋大学 (板倉キャンパス)
〒374-0193 邑楽郡板倉町泉野1-1-1
TEL.0276-82-9111 FAX.-9801
<http://www.itakura.toyo.ac.jp>

上武大学
〒372-8588 伊勢崎市戸谷塚町634-1 (本部)
TEL.0270-32-1010 FAX.-1021 (ビジネス情報学部)
TEL.0270-32-1011 FAX.-1126
〒370-1393 高崎市新町270-1 (経営情報学部)
TEL.0274-42-2828 FAX.-5204
<http://www.jobu.ac.jp>

4 交流事業・支援事業

国際交流団体等 20 年度交流事業・支援事業（案）

団体名	事業名	実施時期	事業内容等
財団法人群馬県観光国際協会	外国人相談事業（巡回法律健康相談、予約制法律相談）	巡回（年3回） 予約制（年2回）	県民や在住外国人からの相談に対し、英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語の4カ国語で、弁護士や行政書士などの専門家による相談会を開催。
	在住外国人日本語学習支援	2008年6月頃	在住外国人の日本語学習支援を行うボランティアを養成するための講座を開講。
	国際交流ボランティア研修会（観光通訳ボランティア養成セミナー＋体験ツアー）	年1回 （言語：英語・中国語）	県内在住外国人との交流や観光促進を目的に、プロの通訳ガイドから観光通訳の基礎知識を学ぶとともに、実際に在住外国人が参加する県内観光ツアーにおいて実践的な通訳を体験。
前橋市国際交流協会	日本語クラス（夜）	一期12回・年3期	日本語学習支援ボランティアによるグループレッスン。
	日本語少人数レッスン（午前）	一期10回・年3期	日本語学習支援ボランティアによる個人レッスン。
	留学生協力家庭の提供	2008年4月、10月頃	宿泊は伴わないが前橋在住の留学生と月1回程度の交流を行う。
	外国人による各国料理教室（日本料理を含む）	年5～6回	在住外国人を講師に市民が異国料理に挑戦。
	国際交流パーティ	2008年12月頃	在住外国人と一般市民及び当協会会員との交流。
	外国人による日本語発表会	2008年11月頃	前橋市を中心とした外国人の日本語によるスピーチと交流会。
	国際理解講座（日本文化体験講座を含む）	年4～5回	それぞれの国の文化紹介と交流。
伊勢崎市国際交流協会	いせさきまつり参加使節団受入	2008年8月	いせさきまつり参加のため姉妹都市スプリングフィールド市より参加使節団が訪問する。また、ホームステイを通して市民レベルでの交流を図る。
	日本秋まつり参加使節団派遣	2008年9月	姉妹都市スプリングフィールド市で行われる日本秋まつりに参加使節団を派遣し、日本文化を紹介する。また、ホームステイを通して市民レベルでの交流を図る。
	姉妹友好都市学生派遣	2008年8月	友好都市中国馬鞍山市へ中学生を派遣し、国際感覚の育成を図る。
	友好訪問団受入	年2～3回	友好都市中国馬鞍山市より、訪問団が本市を訪問し、友好を図る。
	国際詩吟節参加使節団支援	2008年10月	友好都市中国馬鞍山市で行われる国際詩吟節に参加する使節団を支援する。
	国際交流のつどい	2008年10月19日（日）	市民と外国籍市民の共生及び国際理解を図る。各国の文化・生活習慣などの紹介と交流。
	国際映画祭 in ISESAKI	2009年1月	会員を対象とした、外国映画の上映会。
	初級スペイン語教室	未定	スペイン語の基礎を学ぶ。
	日本語教室	年3期、1期10回	外国籍市民無向けの日本語教室。
	国際児童絵画展	2008年11月	市内の外国籍児童・生徒及び姉妹友好都市の子供達の絵画を展示。
高崎市国際交流協会	外国語講座	春・秋2期実施	英語、イタリア語、フランス語、中国語などを予定。
	海外料理教室	2か月に1回程度実施	海外出身者を講師に迎え、各国の料理を紹介する。
	日本語教室	春、秋、冬3期実施 （各10回）	学習者のレベルに合わせた日本語の個人またはグループレッスン。市内3会場で開催。
	多文化共生研究会	4月～9月まで毎月1回	高崎における多文化共生について研究。
	第18回国際交流の集い	2008年6月7日（土） 14時～18時	海外の料理やステージを楽しむ屋外イベント。全国都市緑化フェアにあわせて開催



団体名	事業名	実施時期	事業内容等
桐生市国際交流協会	アメリカ・コロンバス市の高校生受け入れ	2008年夏	国際姉妹都市アメリカ合衆国コロンバス市の高校生を受け入れる。
	アメリカ・コロンバス州立大学美術学部学生受け入れ	2009年3月上旬	国際姉妹都市アメリカ合衆国コロンバス市にあるコロンバス州立大学美術学部学生を受け入れる。
	イタリア・ピエラ市への桐生市高校生派遣	2009年春	国際姉妹都市イタリア共和国ピエラ市へ桐生市高校生を派遣する。
	日本語大冒険	一期10回・年3期	外国人を対象とした日本語教室。
	中学生英会話研修	2009年1月	英語研修施設「British Hills」(福島県)に宿泊し、英語漬けの環境の中、英会話能力の向上と異文化理解を深める。
	外国料理教室	未定	在住外国人を講師に外国の家庭料理を学ぶとともに異文化理解を深める。
	語学講座	未定	在住外国人を講師に外国語を学ぶ。
館林市国際交流	お花見交流会	2008年4月27日(日)	母国の自慢料理を一品持ち寄り外国人との交流会。
	国際交流まつり	2008年10月26日(日)	在住外国人と地域の人々、会員による「食と文化交流」のイベント。毎回一万人以上の人出で賑わう。
	日本語教室	毎週火/木曜日 午前 毎週月曜日 夜	外国人及び帰国子女等を対象とした日本語教室を実施。
	外国人相談	通年 毎週火曜日12～15時	中国語・スペイン語・ポルトガル語・ハングル語・英語による外国人相談を市庁舎で実施。
	外国語講座	未定 市広報等で募集	中国語・ハングル語・英語等を開講予定。
	世界料理講座	未定 市広報等で募集	在住外国人を講師に迎え、各国の料理作りを通して交流を図る。
	日本語発表会	未定 市広報等で募集	在住外国人等を対象に日頃、思うことなどを日本語で発表。表彰後、懇親会を行い、交流を図る。
太田市国際交流協会	国際交流広場	2008年10月中旬	市民と在住外国人の交流を目的として、ブラジル料理などの模擬店や国際交流団体の紹介コーナーを実施。また、日本人のブラジル移住100年を記念してブラジル関連を紹介。
	国際ふれあいパーティー	2008年12月中旬	各国の舞踏や音楽による外国人と市民との交流パーティーを開催。
	外国人日本語スピーチコンテスト	2008年3月頃	市内在住の外国人による日本語弁論大会。
GIFOSS (ギフォス)の会	スタディツアー(第5回)	2008年7～8月 2009年2～3月	カンボジアの留学生とともにカンボジアで現地の学校、ストリートチルドレンの視察を1～2週間。
	アジアの子供展 (世界のなかま展)	2008年10～11月頃	アジアの子供の写真、絵、活動の展示とその国の留学生による話。カンボジア、ラオスで学校を建てることも目的に。邑楽郡で開催。
	ギフォスの着物フェスティバル (第19回)	2008年11月	留学生を中心に在住外国人が国の家族に日本での生活ぶりを報告するきっかけになればと、「着物姿の写真を持って故郷に送ろうよ」という活動を続けて19年目。群馬会館で。

■平成18年における留学生等の状況について

平成20年3月 東京入国管理局高崎出張所

1 留学生等の入国・在留状況の概要について

「留学」の在留資格による平成18年における新規入国者数は、平成17年と比べ3,253人(13.9%)増の2万6,637人となり、「就学」の在留資格による平成18年における新規入国者数は、平成17年と比べ1,045人(5.8%)増の1万9,135人となっています。それぞれ平成16年にいったん減少したものの、平成17年以降は再び増加しています。平成16年に減少した原因として、不法残留者の増加や犯罪の多発に対応するため、平成15年11月から、留学生及び就学生の勉学の意思・能力や経費支弁の能力の有無等許可要件に適合するか否かの審査を実施した結果、これらの許可要件に適合しないと判断された留学生等が相当数に上ったこと等が考えられます。「留学生の受入れ推進施策に関する政策評価書」(平成17年1月総務省)においては、留学生全体として学業成績等質が低下しており、留学目的である学位を取得できない者や不法残留者が増加している旨指摘されており、引き続き適正な受入れに努めていく必要があると考えられます。

平成18年の新規入国者数を地域別に見ますと、「留学」及び「就学」(以下「留学生等」という。)のいずれについてもアジアからの学生が大部分を占めています。

2 留学生等の日本企業等への就職状況の概要について

平成18年における日本企業等への就職を目的とする留学生等からの在留資格変更許可申請件数は、9,034人で、このうち8,272人が許可されています。前年の許可数である5,878人より2,394人(40.7%)の増加となっています。

平成 18 年における許可状況を主な国籍・地域別内訳で見ますと

- ① 中 国 6,000 人 (前年比 1,814 人, 43.3%増)
- ② 韓 国 944 人 (前年比 197 人, 26.4%増)
- ③ 中国 (台湾) 200 人 (前年比 32 人, 19.0%増)
- ④ バングラデシュ 119 人 (前年比 62 人, 108.8%増)
- ⑤ マレーシア 118 人 (前年比 49 人, 71.0%増)

となっています。

また、主な在留資格別内訳は、「人文知識・国際業務」が 5,938 人 (71.8%)、「技術」が 1,720 人 (20.8%) となっており、これら 2 つの在留資格で全体の 92.6% を占めています。

■変更許可後の在留資格別許可人員の推移

(単位：人)

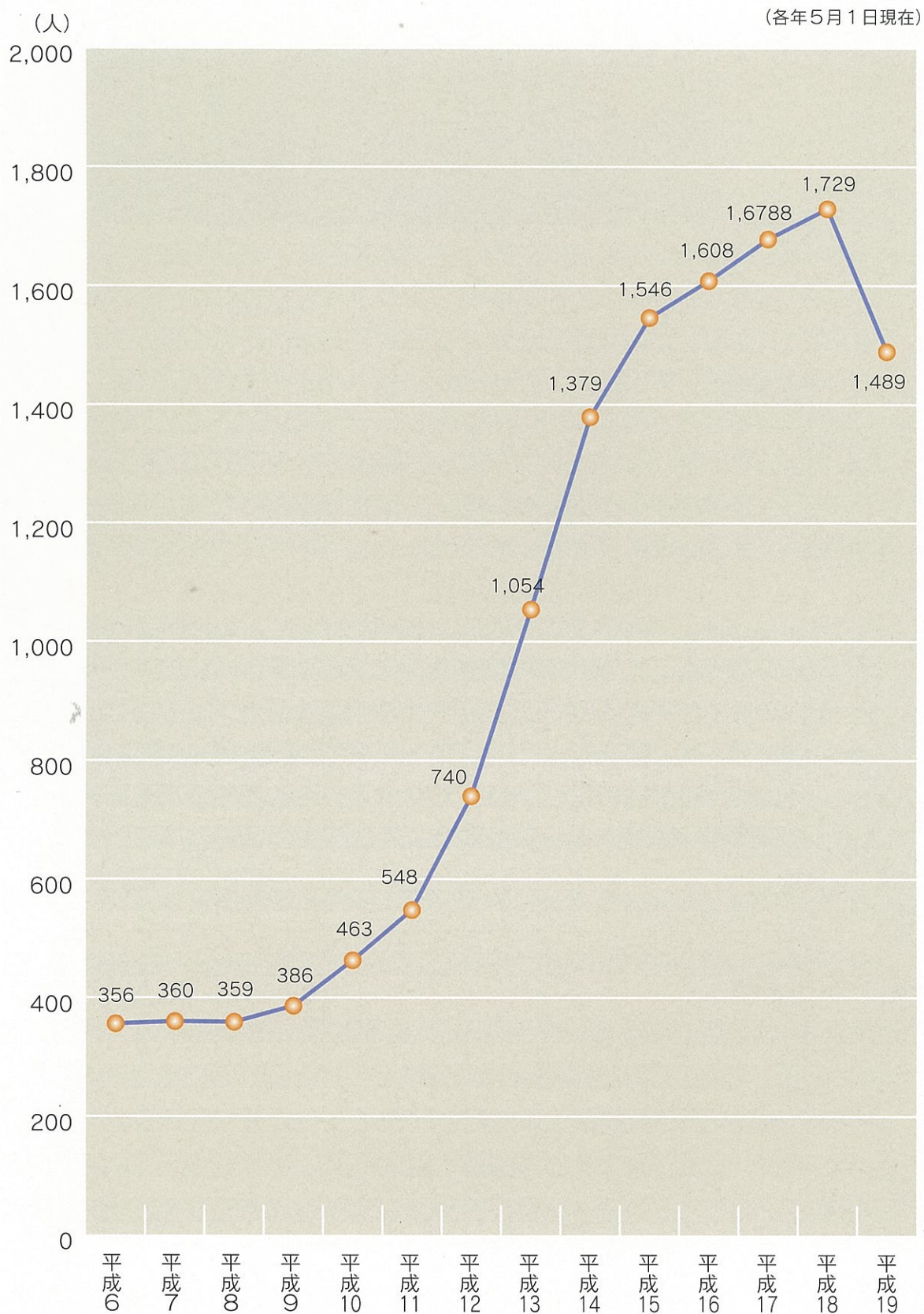
	平成 13 年		平成 14 年		平成 15 年		平成 16 年		平成 17 年		平成 18 年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
人文・国際	2,118	59.1%	1,949	60.7%	2,378	62.9%	3,417	64.9%	4,159	70.8%	5,938	71.8%
技術	1,008	28.1%	727	22.7%	849	22.5%	1,233	23.4%	1,200	20.4%	1,720	20.8%
教授	228	6.4%	346	10.8%	371	9.8%	388	7.4%	335	5.7%	401	4.8%
研究	118	3.3%	97	3.0%	90	2.4%	114	2.2%	92	1.6%	104	1.3%
投資・経営	44	1.2%	39	1.2%	38	1.0%	53	1.0%	28	0.5%	36	0.4%
その他	65	1.8%	51	1.6%	52	1.4%	59	1.1%	64	1.1%	73	0.9%
合計	3,581	100.0%	3,209	100.0%	3,778	100.0%	5,264	100.0%	5,878	100.0%	8,272	100.0%

群馬県内高等教育機関外国人留学生在籍者数（国・地域別）

（平成19年10月1日現在）

機関名 国・地域名	群馬大学	群馬県立女子大学	高崎経済大学	前橋工科大学	関東学園大学	共愛学園前橋国際大学	上武大学	高崎商科大学	高崎健康福祉大学	東京福祉大学	創造学園大学	東洋大学板倉キャンパス	育英短期大学	高崎商科大学短期大学部	新島学園短期大学	群馬工業高等専門学校	合計			
	アジア	101	102	103	104	105	107	108	110	111	112	113	114	115	116	117	118	122		
	101	102	103	104	105	107	108	110	111	112	113	114	115	116	117	118	122	1	1	
	101	102	103	104	105	107	108	110	111	112	113	114	115	116	117	118	122	1	1	
	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	8	8
	104	104	104	104	104	104	104	104	104	104	104	104	104	104	104	104	104	104	7	7
	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	12	12
	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	4	4
	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	63	63
	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	14	14
	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	2	2
	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	1	1
	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	113	63	63
	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114	8	8
	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	115	32	32
	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	1233	1233
	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	2	2
	118	118	118	118	118	118	118	118	118	118	118	118	118	118	118	118	118	118	1	1
	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	19	19
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	15	15
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	1	1
中近東	201	202	208	210	213	(小計)	201	202	208	210	213	(小計)	201	202	208	210	213	(小計)	2	2
	201	202	208	210	213	(小計)	201	202	208	210	213	(小計)	201	202	208	210	213	(小計)	2	2
	201	202	208	210	213	(小計)	201	202	208	210	213	(小計)	201	202	208	210	213	(小計)	1	1
	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	3	3
	208	208	208	208	208	208	208	208	208	208	208	208	208	208	208	208	208	208	1	1
	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	1	1
	213	213	213	213	213	213	213	213	213	213	213	213	213	213	213	213	213	213	1	1
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	8	8
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	5	5
アフリカ	301	304	310	311	316	317	(小計)	301	304	310	311	316	317	(小計)	301	304	310	311	316	317
	301	304	310	311	316	317	(小計)	301	304	310	311	316	317	(小計)	301	304	310	311	316	317
	301	304	310	311	316	317	(小計)	301	304	310	311	316	317	(小計)	301	304	310	311	316	317
	304	304	304	304	304	304	304	304	304	304	304	304	304	304	304	304	304	304	1	1
	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	2	2
	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	2	2
	316	316	316	316	316	316	316	316	316	316	316	316	316	316	316	316	316	316	1	1
	317	317	317	317	317	317	317	317	317	317	317	317	317	317	317	317	317	317	2	2
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	11	11
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	6	6
大洋州	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	1	1
	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	401	(小計)	1	1
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	1	1
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	1	1
北米	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	2	2
	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	2	2
	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	501	502	(小計)	2	2
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	2	2
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	2	2
中南米	612	613	614	616	620	(小計)	612	613	614	616	620	(小計)	612	613	614	616	620	(小計)	7	7
	612	613	614	616	620	(小計)	612	613	614	616	620	(小計)	612	613	614	616	620	(小計)	7	7
	612	613	614	616	620	(小計)	612	613	614	616	620	(小計)	612	613	614	616	620	(小計)	7	7
	612	613	614	616	620	(小計)	612	613	614	616	620	(小計)	612	613	614	616	620	(小計)	1	1
	613	613	613	613	613	613	613	613	613	613	613	613	613	613	613	613	613	613	1	1
	614	614	614	614	614	614	614	614	614	614	614	614	614	614	614	614	614	614	2	2
	616	616	616	616	616	616	616	616	616	616	616	616	616	616	616	616	616	616	2	2
	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	1	1
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	7	7
	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	(小計)	5	5
ヨーロッパ	707	711	712	738	756	(小計)	707	711	712	738	756	(小計)	707	711	712	738	756	(小計)	4	4
	707	711	712	738	756	(小計)	707	711	712	738	756	(小計)	707	711	712	738	756	(小計)	4	4
	707	711	712	738	756	(小計)	707	711	712	738	756	(小計)	707	711	712	738	756	(小計)	4	4
	707	707	707	707	707	707	707	707	707	707	707	707	707	707	707	707	707	707	1	1
	711	711	711	711	711	711	711	711	711	711	711	711	711	711	711	711	711	711	4	4
	712	712	712	712	712	712	712	712	712	712	712	712	712	712	712	712	712	712	1	1
	738	738	738	738	738	738	738	738	738	738	738	738	738	738	738	738	738	738	2	2
	756	75																		

群馬県内高等教育機関の留学生数の推移



群馬県内高等教育機関外国人留学生在籍者数（在籍種別）

（平成 19 年 10 月 1 日現在）

区 分	予 備 教育生	学部・短大・高専					大学院					合 計	
		正規生	非正規生			計	正規生		非正規生				計
			聴講・科目 等履修生	研究生	その他		修士	博士	聴講・科目 等履修生	研究生	その他		
群馬大学		101	16	20		137	49	63	2	6		120	257
群馬県立女子大学		4	2			6	1					1	7
高崎経済大学		154				154	31	7		3		41	195
前橋工科大学		9				9	1			1		2	11
関東学園大学		82				82	9					9	91
共愛学園前橋国際大学		49	2			51						0	51
上武大学		483				483	25					25	508
高崎商科大学		6				6	2					2	8
高崎健康福祉大学						0				1		1	1
東京福祉大学				122		122	2			7		9	131
創造学園大学		55				55						0	55
東洋大学板倉キャンパス		152				152	21	9				30	182
育英短期大学		1				1						0	1
高崎商科大学短期大学部		1				1						0	1
新島学園短期大学		2				2						0	2
群馬工業高等専門学校		9				9						0	9
合 計	0	1108	20	20	122	1270	141	79	2	18	0	240	1510

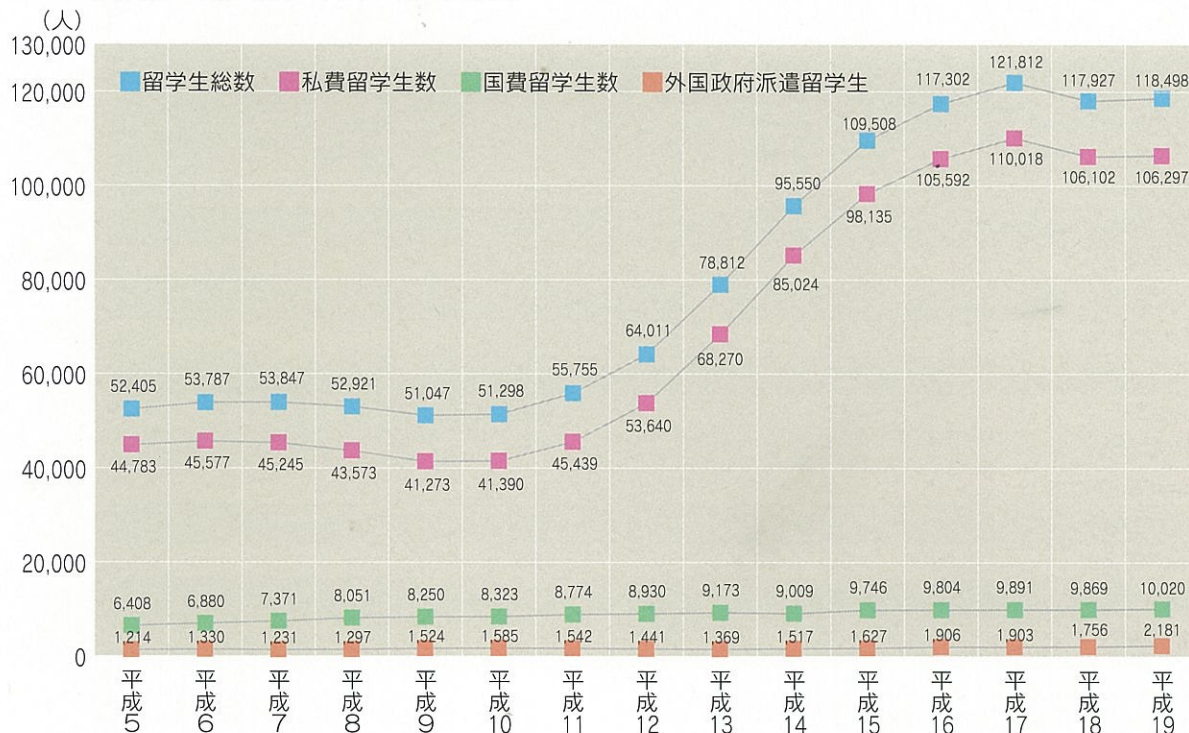
群馬県内高等教育機関外国人留学生在籍者数（経費種別）

（平成 19 年 10 月 1 日現在）

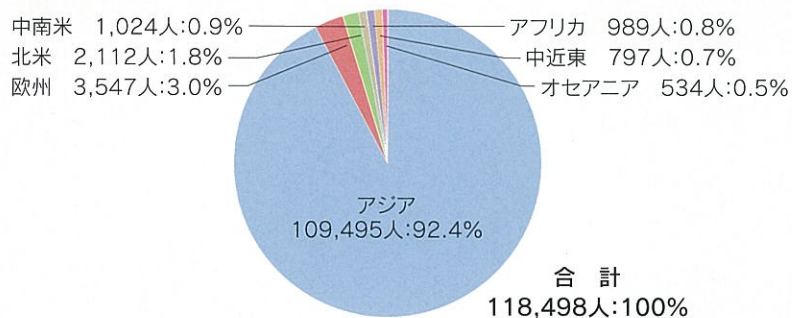
区 分	国費留學生	日 韓 共 同 理 工 系 学 部 留 学 生	中 国 政 府 派 遣 留 学 生	マ ー シ ア 政 府 派 遣 留 学 生	イ ン ド ネ シ ア 政 府 派 遣 留 学 生	そ の 他 の 政 府 派 遣 留 学 生	県 費 留 学 生	私 費 留 学 生	左 記 以 外 の 留 学 生	計	交 流 協 定 に 基 づ く 留 学 生 内 数
群馬大学	42	5		47		3	160			257	17
群馬県立女子大学							7			7	2
高崎経済大学	3						192			195	4
前橋工科大学							11			11	
関東学園大学							91			91	
共愛学園前橋国際大学							49	2		51	
上武大学	1						507			508	
高崎商科大学							8			8	
高崎健康福祉大学							1			1	
東京福祉大学							131			131	
創造学園大学							55			55	
東洋大学板倉キャンパス	2					1	177	2		182	
育英短期大学							1			1	
高崎商科大学短期大学部							1			1	
新島学園短期大学							2			2	
群馬工業高等専門学校	3			6						9	
合 計	51	5	0	53	0	4	0	1393	4	1510	23

留学生関係基礎資料

1. 全国留学生数の推移 (毎年5月1日現在)



2. 全国出身地域別留学生数 (平成19年5月1日現在)

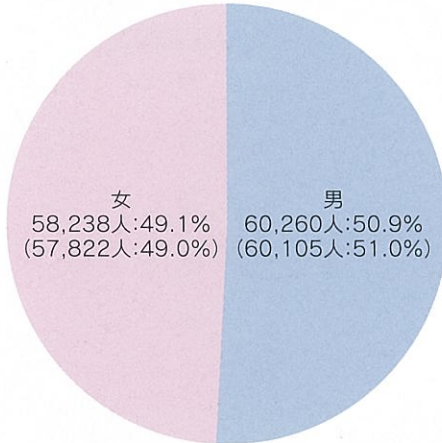


3. 全国出身国(地域)別留学生数 (平成19年5月1日現在、()内は平成18年5月1日現在)

国(地域)名	留学生数	構成比	国(地域)名	留学生数	構成比
中国	71,277人 (74,292)	60.2% (63.0)	ドイツ	449人 (393)	0.4% (0.3)
韓国	17,274人 (15,974)	14.6% (13.5)	オーストラリア	330人 (354)	0.3% (0.3)
台湾	4,686人 (4,211)	4.0% (3.6)	ブラジル	316人 (342)	0.3% (0.3)
マレーシア	2,146人 (2,156)	1.8% (1.8)	ロシア	337人 (334)	0.3% (0.3)
ベトナム	2,582人 (2,119)	2.2% (1.8)	イギリス	370人 (333)	0.3% (0.3)
アメリカ	1,805人 (1,790)	1.5% (1.5)	カナダ	307人 (286)	0.3% (0.2)
タイ	2,090人 (1,734)	1.8% (1.5)	カンボジア	283人 (278)	0.2% (0.2)
インドネシア	1,596人 (1,553)	1.3% (1.3)	ラオス	264人 (266)	0.2% (0.2)
バングラデシュ	1,508人 (1,456)	1.3% (1.2)	エジプト	283人 (251)	0.2% (0.2)
スリランカ	1,181人 (1,143)	1.0% (1.0)	イラン	229人 (236)	0.2% (0.2)
モンゴル	1,110人 (1,006)	0.9% (0.9)	トルコ	169人 (171)	0.1% (0.1)
ネパール	1,309人 (998)	1.1% (0.8)	サウジアラビア	159人 (23)	0.1% (0.02)
ミャンマー	849人 (736)	0.7% (0.6)	ウズベキスタン	167人 (139)	0.1% (0.1)
フィリピン	538人 (542)	0.5% (0.5)	スウェーデン	145人 (137)	0.1% (0.1)
インド	480人 (525)	0.4% (0.4)	その他	3,788人 (3,732)	3.2% (3.2)
フランス	471人 (417)	0.4% (0.4)	計	118,498人 (117,927)	100.0% (100.0)

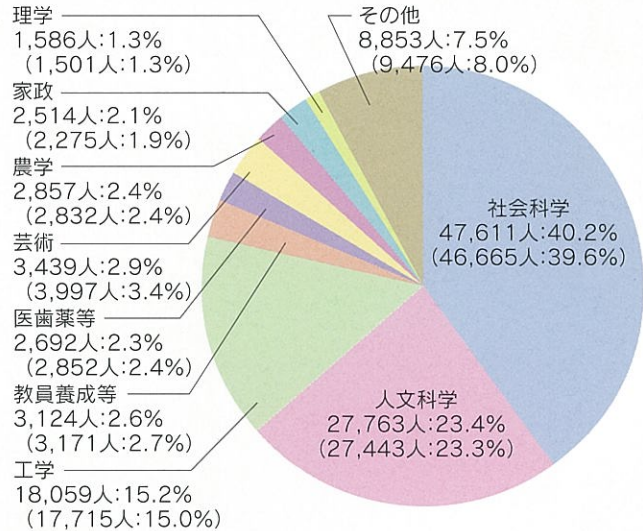
4. 全国男女別留学生数

(平成19年5月1日現在、()内は平成18年5月1日現在)



5. 全国専攻分野別留学生数

(平成19年5月1日現在、()内は平成18年5月1日現在)

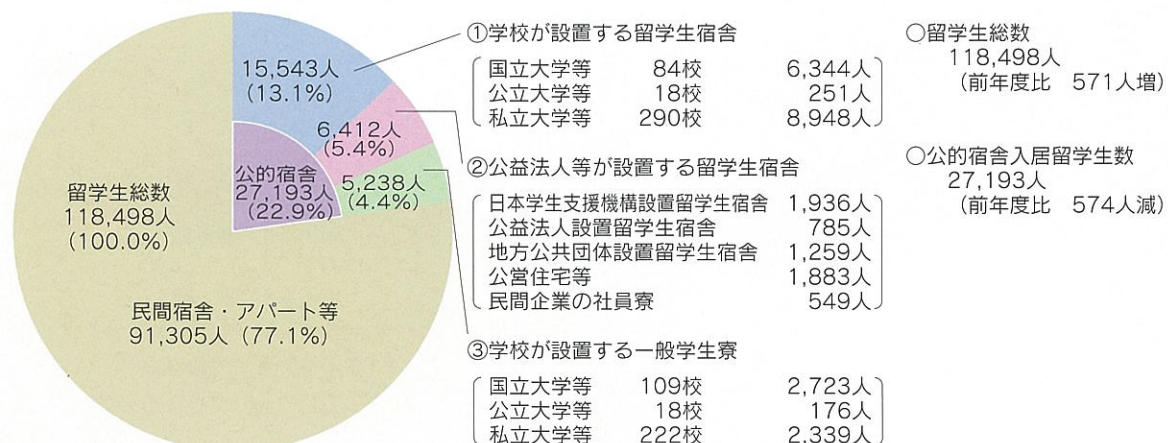


○留学生総数 118,498人 (117,927人)

6. 全国国公立別・在学段階別留学生数 (平成19年5月1日現在、()内は18年5月1日現在)

	国立		公立		私立		合計		
	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比	
在学段階	学部	9,767人 (9,668)	16.4% (16.0)	1,284人 (1,335)	2.2% (2.2)	48,459人 (49,417)	81.4% (81.8)	59,510人 (60,420)	100.0% (100.0)
	大学院	19,516人 (19,264)	61.8% (62.3)	1,337人 (1,347)	4.2% (4.4)	10,739人 (10,299)	34.0% (33.3)	31,592人 (30,910)	100.0% (100.0)
	短期大学	3人 (11)	0.1% (0.4)	6人 (13)	0.3% (0.5)	2,101人 (2,450)	99.6% (99.0)	2,110人 (2,474)	100.0% (100.0)
	高等専門学校	460人 (458)	85.3% (84.3)	1人 (1)	0.2% (0.2)	78人 (84)	14.5% (15.5)	539人 (543)	100.0% (100.0)
	専修学校	0人 (0)	0.0% (0.0)	10人 (9)	0.04% (0.04)	22,389人 (21,553)	99.96% (99.96)	22,399人 (21,562)	100.0% (100.0)
	準備教育機関	0人 (0)	0.0% (0.0)	0人 (0)	0.0% (0.0)	2,348人 (2,018)	100.0% (100.0)	2,348人 (2,018)	100.0% (100.0)
	合計	29,746人 (29,401)	25.1% (25.1)	2,638人 (2,705)	2.2% (2.3)	86,114人 (85,821)	72.7% (72.8)	118,498人 (117,927)	100.0% (100.0)

7. 留学生の宿舎の状況 (平成19年5月1日現在)





8. 地方別・都道府県別留学生数（平成 19 年 5 月 1 日現在、（ ）内は 18 年 5 月 1 日現在）

地方名	留学生数・構成比	都道府県	留学生数	地方名	留学生数・構成比	都道府県	留学生数		
北海道	1,776 人 : 1.5% (1,800 人 : 1.5%)	北海道	1,776 (1,800)	近畿	21,134 人 : 17.8% (20,832 人 : 17.7%)	三重	767 (792)		
						滋賀	377 (379)		
京都	4,746 (4,732)								
大阪	10,203 (9,986)								
兵庫	3,737 (3,721)								
奈良	1,042 (971)								
和歌山	262 (251)								
東北	3,157 人 : 2.7% (3,287 人 : 2.8%)	青森	326 (358)			中国	4,764 人 : 4.0% (4,681 人 : 4.0%)	鳥取	200 (210)
		岩手	401 (373)					島根	186 (183)
		宮城	1,767 (1,935)					岡山	1,725 (1,588)
		秋田	216 (161)	広島	1,930 (1,950)				
		山形	211 (206)	山口	723 (750)				
		福島	236 (254)	四国	1,319 人 : 1.1% (1,326 人 : 1.1%)			徳島	341 (312)
関東	60,099 人 : 50.7% (59,864 人 : 50.8%)	茨城	2,463 (2,636)					香川	333 (389)
		栃木	1,113 (1,307)					愛媛	465 (437)
		群馬	1,324 (1,532)					高知	180 (188)
		埼玉	5,496 (5,377)					九州	13,039 人 : 11.0% (12,298 人 : 10.4%)
		千葉	5,708 (5,599)			佐賀	400 (364)		
		東京	40,316 (39,520)	長崎	1,236 (1,236)				
		神奈川	3,679 (3,893)	熊本	715 (665)				
中部	13,210 人 : 11.1% (13,839 人 : 11.7%)	新潟	1,246 (1,374)	大分	3,587 (3,060)				
		富山	551 (503)	宮崎	121 (155)				
		石川	1,240 (1,296)	鹿児島	440 (484)				
		福井	320 (290)	沖縄	523 (514)				
		山梨	710 (686)	計	118,498 人 : 100.0% (117,927 人 : 100.0%)				
		長野	613 (769)						
		岐阜	1,360 (1,534)						
		静岡	1,396 (1,482)	愛知	6,774 (6,905)				

■推進協議会事業概要・関係資料

平成 19 年度事業報告

1. 留学生関連の情報交換に関すること
 - (1) 会誌「AKAGI」の発行（予定）
 - ・発行日 平成 20 年 3 月（第 18 号）
 - ・発行部数 1,500 部
2. 留学生と地域社会との交流の促進に関すること
 - (1) 各種交流行事への参加（主なもの）
 - ① 国際交流まつり（財団法人群馬県観光国際協会主催）
平成 19 年 10 月 7 日（日） 県民広場
 - ② 着物フェスティバル（G I F O S S の会主催）
平成 19 年 10 月 14 日（日） 群馬会館
 - ③ 前橋市立荒子小学校講演会「感じようアジアの風」（NPO 法人アジア交流協会主催）
平成 19 年 10 月 31 日（水） 前橋市立荒子小学校
 - ④ その他
県内 11 の小中学校へ留学生 24 名を国際教育等の授業の講師として派遣
3. その他
 - (1) 外国人留学生との交流会、スピーチコンテストの開催
 - ・平成 19 年 11 月 4 日（日） 高崎経済大学
 - (2) 定例総会の開催
 - ・平成 20 年 2 月 18 日（月） 群馬大学荒牧キャンパス

平成 20 年度事業計画（案）

1. 留学生関連の情報交換に関すること
 - 会誌「AKAGI」の発行
2. 留学生の地域交流・教育交流の促進に関すること
 - 関係団体等が実施する事業への後援・協力
 - (1) 地域フェスティバル、県内各種国際交流行事（「国際交流まつり」等）、見学会等の参加・後援
 - (2) 小中学校・各種団体主催「国際理解講座」等への留学生講師派遣
 - (3) 地域フォーラム、セミナー、シンポジウム、スピーチコンテスト等への開催協力
3. 留学生の生活環境の整備に関すること
 - 長期・短期ホストファミリー、協力家庭等との連携
 - 地域の各種団体等との連携・広報の実施
4. その他
 - (1) 運営委員会の開催
 - (2) 外国人留学生との交流会 上武大学主催
 - (3) 定例総会の開催



■群馬県留学生交流推進協議会要項

(名 称)

第1 本会は、群馬県留学生交流推進協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目 的)

第2 協議会は、群馬県における留学生の円滑な受入れの促進及び留学生と地域住民との交流活動を推進することを目的とする。

(定 義)

第3 この要項において留学生とは、教育・研究指導を受ける目的で入国し、群馬県内の高等教育機関に在学する外国人をいう。

(協議事項)

第4 協議会は、第2に規定する目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 留学生と地域社会との交流の促進に関すること。
- (2) 留学生の学習条件の整備に関すること。
- (3) 留学生の生活条件の整備に関すること。
- (4) その他協議会の目的達成に必要な事項に関すること。

(組 織)

第5 協議会は、群馬県における留学生の受入れに係る関係機関等の長又は代表者を会員として組織する。

(役 員)

第6 協議会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1人
- (2) 副会長 2人

2 会長は、群馬大学長をもって充て、副会長は、総会の議を経て会長が委嘱する。

(役員職務)

第7 会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が定める順位に従って会長の職務を代行する。

(顧 問)

第8 協議会に、目的達成に必要な助言及び協力を求めるため、顧問を置くことができる。

2 顧問は、会長が委嘱する。

(総 会)

第9 協議会は、年1回定例総会を開催するほか、必要に応じて臨時に開くことができる。

2 会長は、総会を召集し、その議長となる。

(運営委員会)

第10 協議会の円滑な運営を図るため、群馬県留学生交流推進協議会運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(事 務)

第11 協議会の事務は、群馬大学研究推進部国際交流課において処理する。

(雑 則)

第12 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成2年12月12日から施行する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成17年4月1日から施行する。

■群馬県留学生交流推進協議会運営委員会要項

(趣 旨)

第1 この要項は、群馬県留学生交流推進協議会要項（以下「協議会要項」という。）第10の第2項の規定に基づき、群馬県留学生交流推進協議会運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 運営委員会は、協議会要項第4に規定する事項の具体的事項について審議する。

(組 織)

第3 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、群馬県留学生交流推進協議会会長が委嘱する。

(1) 協議会要項第5に規定する機関等から選出された者 若干人

(2) 群馬大学副学長

(3) その他の運営委員会が必要と認めた者 若干人

2 前項第1号及び第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4 運営委員会に委員長を置き、群馬大学副学長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(委員長以外の者の出席)

第5 委員長が必要と認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事 務)

第6 運営委員会の事務は群馬大学研究推進部国際交流課において処理する。

(雑 則)

第7 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、平成2年12月12日から施行する。

2 この要項施行後、最初に委嘱される第3の第1項第1号及び第3号の委員の任期は、第3の第2項の規定にかかわらず、平成4年3月31日までとする。

附 則

この要項は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成17年4月1日から施行する。



編集発行 群馬県留学生交流推進協議会事務局
〒371-8510 前橋市荒牧町4丁目2番地
群馬大学研究推進部国際交流課内
TEL.027-220-7626
FAX.027-220-7630
発行日 2008年3月